

私は、昭和 44 年石川県小松市生まれ、高校卒業後に北海道に渡り、途中 2 年間の東京勤務を経て、現在まで札幌で過ごす自称道民です。

大学で農業土木を専攻したことがきっかけとなり、同分野を主体とする建設コンサルタントに入社し、今年で 25 年目になります。

技術士は、3 回受験の末、2011 年(平成 23 年)3 月によりやく合格しました。当時小学生の息子にも添削を受け、口頭試験では会場にあったホワイトボードで説明したことも含め、やれることはやった経験が今に活かされています。

業務では、主にポンプ場やパイプライン等の農業水利施設の設計に携わってきました。そんな中で河川、道路、管理者等の対外協議や、地質、河川、電気機械、建築等の他分野の技術者の方と連携して仕事をさせて頂く機会が多くあり、コミュニケーション能力の重要性を認識させられました。

また、設計業務における発注先の要求事項は多種多様化し、実施設計であっても、計画から施工、維持管理等の総合的な知識や、従来の分野の枠を超えた問題に対する対応も求められているのが現状です。そのため、日々の自己研鑽に加え、今後、他分野の技術士間の連携と多様な視点からの技術提案のニーズがますます高まると感じています。

技術士として 5 年を経過した現在、家族には、“ちゃんと仕事をしているのか心配……”と日々激励(?)されつつも、もはや習慣となってしまった早朝出勤により諸問題の解決に真摯に取り組み、かつ、社会貢献できるよう日々精進していきたいと思っています。

源田 和隆 (げんだ かずたか)

●農業部門(農業土木)

勤務先

NTC コンサルタンツ株式会社
北海道支社



→次号は、山本将礼さん(農業部門)

私は、北見市で生まれ、大学卒業まで北見で過ごした後に、現在の勤務先である鋼製橋梁の製作メーカーに入社しました。入社当初は、小樽工場の工事に配属され現地工事を担当しました。入社 5 年目の夏のある日、当時の役員とお酒を飲んでいたら突然、「君は設計課に行って 3 年間橋梁を勉強してこい」と言われ釧路工場の設計課に配置換えになり、橋梁を改めて勉強し直すことになりました。私の勉強不足もあったのか、当初 3 年と言われた私の設計課勤務は、一昨年、工事グループに復帰するまで 27 年間に及ぶことになってしまいました。(3 年も経ったら戻るのはいやでしたけど…)

思い返すと設計課に移動した当時は、パソコンなど無く課長がザラ紙に書いた計算を電卓叩いて検算し、清書して計算書を作成することで設計手法だけでなく橋梁そのものを勉強したものです。課長には、職人の師弟関係のような思いがあったものです。設計ツールの進歩に合わせて橋梁設計のやり方も大きく変わりインプットの入れ方さえ分かれば、それらしい結果を出すことができるようになり、随分便利になりましたが、怖さも感じています。製作メーカーの設計業務は、受注物件の設計照査が中心になります。読者の中には、細かい照査をされて困った方もいらっしゃるかも知れませんがご容赦願います。

技術士は、ちょっと諦めていましたが 10 年ぶりに受験した 4 年前に筆記試験に合格しました。しかし、口頭試験に失敗してしまい、2 年前に 2 回目の口頭試験でなんとか合格することができました。

現在は、札幌営業所長も兼務していて技術的なことよりお金や現場の人員配置(これもマネジメントですが)に腐心することが多くなりましたが、次世代への技術伝承が今後の重要な課題と思っています。

鈴木 秀俊 (すずき ひでとし)

●建設部門(鋼構造及びコンクリート)

勤務先

株式会社 釧路製作所



→次号は、槇正二郎さん(建設部門)